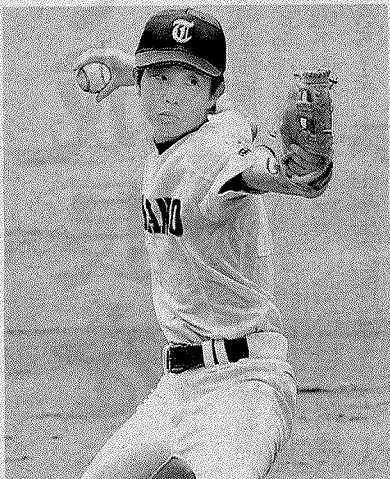


②玉野の新宮大聖投手と①秋友風輝選手  
||いずれも倉敷市中庄のマスケットスタジアムで



## 熱球

「島のバッテリー」が5打点を挙げる活躍で、チームを勝利に導いた。

開幕カードを制した玉野のエース・新宮大聖投手(3年)と

# 島の絆 信じ投球

玉野・幼なじみ  
バッテリー

2人は小中学校時代から同じチームで野球をしてきた。学年は一つ異なるとはいえ、気心の知れた仲。帰り道では野球について語り合うといい、「昔から知っているのやりやすい」と口をそろえる。

初回、新宮投手は先頭打者に四球を与えた。「緊張して体がツトで取り返す」と打席に立った5番の秋友選手が高めの直球を左方向に打ち返し、まず同点に追い付く。その後、押し出しで1点を勝ち越すと、今度は2死満塁から9番の新宮投手が走者一掃の適時二塁打を放ち、相手を引き離れた。塁上でガッツポーズを見せた新宮投手は「何

捕手の秋友風輝選手(2年)は、いずれも香川県の直島から通学している。フェリーなどで片道約1時間。今年4月の春季県高校野球大会西部地区予選では、濃霧のためフェリーが欠航して会場にたどり着けず、メンバー不足で不戦敗となる悔しさも味わった。

動かなかった」。それを察するようには秋友選手がマウンドに駆け寄り、声を掛ける。しかし、続くピンチで秋友選手の悪送球もあり、立ち上がりには2点を失った。

その裏の攻撃で、2人は失点を挽回するプレーを見せる。2死一、二塁のチャンスで、「バ

としてでも打ちたかった」と振り返る。

バッテリーは二回から落ち着きを取り戻し、六回からは継投で逃げ切った。戸田英樹監督は「今日はバッテリーが頑張った」とねぎらった。

【益川量平】